

令和5年度

華服飾専門学校

自己評価・学校関係者評価報告書

基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価結果

【委員会 ご意見】

- ・「自ら考えて行動する自立性」このことができるためには色々な分野の基本・常識を学習することが大切です。自己の価値観と一体化させて初めてできることです。そのためにカリキュラムが大切です（白石）
- ・教育理念は良いと思います。専門職として、社会人として学生さんを育てていくかが大切です（椿）
- ・インターンシップの充実は学生の卒業後の具体的なイメージができ、その後の学習意欲にもつながると思います（谷田川）
- ・各科のディプロマポリシーを学生へしっかり意識づける。資格取得、技術、知識の自主性への指導を教職員、講師共に協力していく（窪田）

【～2023年】

建学の精神「華学園の教育を通じて、時代の求める職業人を育成し、社会の発展に寄与すること」（教育理念）に則った教育目標・育成人材像・ディプロマポリシーの作成を2022年行った。昨年度はカリキュラムポリシーの作成を行った。

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー各科の育成人材像＞

多様性が尊重される社会の中で、「礼節」を重んじながら「自立した自分自身」、「他者への配慮と尊重」「社会への貢献」の3つの姿勢と、「真・善・美」を持った価値判断で行動できる人間性を養うために必要な教育課程を編成している。

ファッションテクニカル科

育成人材像に記載の人材を育成するために必要な「美しさを立体化する製図力」「上質に仕立てる縫製力」、そして「美しさを見極める審美眼」を養うための科目を設置し、「自ら考えた行動する自立性」を育む教育手法を用いて、基礎・応用・実践科目からなる体系的な教育を行う。

ファッションクリエイター科

育成人材像に記載の人材を育成するために必要な「情報を収集・分析し考察する力」を身につけ、その結果から「独自性のある美しい服飾文化を創造する力」と「適切に他者に伝えていく力」を養うための科目を設置し、「自ら考え行動する自立性」を育む教育手法を用いて、基礎・応用・実践科目からなる体系的な教育を行う。

【今後】「教育内容のアップデート」

現在の就職先、業界を鑑み、教育内容の整備を行う。学生が希望職種で働ける能力が可能な教育課程を構築する（デザイナー・パタンナー職）

基準2 学校運営

自己評価結果

【委員会 ご意見】

- ・2年間で完成させる教育は基本の徹底が大目標になります。そして、その基盤に基く応用として「3年目・専攻科」が位置づけられます。そのため、専門学校としてのステップアップのための重要性を秘めています。この時代だからこそ重要性を秘めています。今後の生徒の拡大が望まれます（白石）

- ・校内の学びはもちろんですが、様々な体験や見学をして視野を広くするような取り組みもされていて良いと思います（椿）
- ・少人数のクラスなので、個人に対して細かい対応ができることが華の良いところです。SNS、バーチャル、AI、衣食住、区間、アート、科学、社会情勢など複雑に絡んだ時代の服飾は伝統を大切にしながら、常に時代の変化に敏感に微調整していく用意が必要です（井上）
- ・3年制（専攻科）進学者が次年度も増えるようなカリキュラムを考える（窪田）

【2024年対応】

華学園では、80周年を迎えるにあたり新中期3ヵ年計画の策定を協議し、現在とり進め中である。

現状の最大の課題は、入学者の確保である。本校の魅力を引き出すために職業実践専門課程の目的に沿った、社会のニーズに適った科目の導入やカリキュラムの見直しが必要である。

基準3 教育活動

自己評価結果

【委員会 ご意見】

- ・プレゼンにまつわる方法論はいくつもあります。社会生活において重要なスキルです。教員間で1つの大目標（方法論）を決め、その方法論を各自の教科において実践すべきと思います（白石）
- ・専門学校として専門教育を受けた人材を業界に送ることは大前提ですが、2年間でしっかり高校生から学生、社会人というように大人の1人として育て上げることも使命だと思います（椿）
- ・資格取得は取得することが自身の将来にどのようなメリットが生まれるかを具体的に感じてもらうことでより意欲的に動けるのではないのでしょうか（谷田川）
- ・クリエイター科は「縫製、パターン」能力。テクニカル科は「デザイン、ディレクション能力」が不足している。両学科のハイブリッドな教育カリキュラムが必要だと思います。合同授業や共同作業で授業を連携して互いの不足分を補習していく。コンセプト－企画－デザイン－パターン、素材－縫製、商品化－販売まで 流れで体験できるようなカリキュラム構成を構築。各授業を連動させる（井上）
- ・発表会のフィードバックを校内掲示などでオープンキャンパス参加者へも告知する（窪田）

【2024年前期対応】

<学生の質の向上>

卒業製作発表会・ファッションショー

クリエイター科では従来どおりに個別にテーマを決めて発表を行ったが、リサーチにも力を入れ中身の濃い内容の発表が増えた。学園祭のファッションショーも事前のスタイリングチェック、専門家（モデル）に依頼しウォーキングの指導も行った結果、昨年より見ごたえのあるショーとなった。

<教員の資質向上>

縫製の技術向上のための研修に2名が参加。学校関係者評価委員会委員メンバー企業にお願いし、新入研修の教育方法を学んだ。

<教育設備>

学園としてのWi-Fi環境を整備する。パキューム式のアイロン台など設備の老朽化が進んでいるので順次、更新する。

基準4 学修成果

自己評価結果

【委員会 ご意見】

- ・「発表会」は大切な表現の場です。プレゼンの方法は「基準3」で述べた通りです。きちんと教育すべきです（白石）
- ・Wi-Fi環境は必須です。またICT環境等は更新もあり大変ですが対応しなければならないことだと思います（椿）

- ・ファッションショーを実施する際にモデルが階段から降りてくる姿が客席側から見えてしまっていたのでショーとして雰囲気作りとして何か会場の設備ができることより学生のモチベーションにつながる気がしました（谷田川）
- ・服が好き、服を着ることが好きが基本ですが、スタイリング、コーディネート、リメイク、アレンジを物作りと勘違いしている感が強いです。オリジナル商品を作ることがハードルが高すぎて諦めている。下手でも自分で作った、頑張った体験の積み重ねが自信につながり、次の目標が見える。（井上）

【2024 年前期対応】

＜就職率＞令和 5 年度の就職希望者に対する就職率は 100%であった。卒業生就職率も 93%となった。

従来より求人の幅が広がり、有名ファッションブランドや高級セレクトショップの就職者がいた一方、なかなか就職が決まらない学生が複数いた。

現在の 2 年生に対しても就職活動の早期化に伴い、就職ガイダンスの授業を 1 年次後期より実施し、同時に企業説明会を 10 月より行った。内定した先輩による内定者講話も新たに加えるなど、就職率の向上を目指して取り組んだ。

＜資格取得＞学習成果の証として、資格取得には特別講座も行い対策している。

課題は、受験者の学力の低下、検定取得の目的意識の向上に苦慮している。今年度も対策授業も実施し合格率向上を目指す。

＜コンクール・ファッションショー参加＞

例年通り、ピギーズスペシャル（豚革利用のファッションショー）、学園祭ファッションショーを実施する。

デザイン画等のコンクールも応募を継続する。

基準 5 学生支援

自己評価結果

【委員会 ご意見】

- ・「学生の質の確保」と「人数の確保」と共存させて学生を確保します。特に質の部分は、その内容が多岐にわたる要素が拡大基調にあります。今の時代では、学生支援の体制作りは、重要な側面があります。疎かにできない体制です（白石）
- ・色々な問題を抱えている学生もたくさんいます。専門職を身につけることは大前提ですが、現代では学生さんの心の問題とかも共有できることが必要と考えます（椿）
- ・グレーゾーン気味の学生や学習意欲に関しては入試面接のタイミングでなるべく判断していく必要があるかと思います。入学後のフォローとしては日々のコミュニケーションが大切だと思います。月に 1 回、四半期に 1 回の面談等を設けて学生一人ひとりの変化に気付ける体制作りができると良いと思いました（谷田川）
- ・楽しい、面白い、ワクワクするが基本ですが、物事を追求する上で実力が伴わず最初からチャレンジしないケースが多々ある。業界の基本的なことは色々と強制的に体験させることも必要だと思います。その上で服飾の楽しさを深掘りして実力の伴ったなりたい自分を見つけるサポートが学校の役目だと思います（井上）
- ・中途退学者対応としてカウンセラーを学園で窓口として設置されると良い（窪田）

【2024 年前期対応】

＜中途退学者への対応＞

近年、中学・高校で不登校を経験し精神的にも不安定な学生が増加し、担任がフォローするも、退学に繋がっている。今年度も担任の負担も増加している。今後は、専門のカウンセラーによる支援等何らかの対策が必要である。

基準 6 教育環境

自己評価結果

【委員会 ご意見】

- ・今の時代にあった専門分野として最低限備えるべき機器は備えるべきであり、その上に専門教育が存在します（白石）
- ・ICTを活用した教育教材やアプリケーションは時代の流れと共に絶対に必要なことです。ただし今までどおり、やってきた教育活動で残していかなければならないこともたくさんあると思います。それを精査する必要があると思います（椿）
- ・Wi-Fi 環境はあって当たりまえである。そのみならず、老朽化した全ての機器を計画的に更新する必要がある（窪田）

【2024 年前期対応】

<施設・設備>

職業用ミシンは1人1台を備え、演習室、作業台も広いスペースを確保し学習環境を整えているがいまだに、パソコン、CADは実用性のない古いもので更新の検討の必要がある。

<学外実習・インターン>

インターンシップは、募集があれば就職希望先などを参考に学生に紹介している。実施に当たっては事前・事後の指導を行っている。ただし、依頼を受ける数は限定されているので今後、増やしていく必要がある。

<防災>

学園として防火防災避難訓練は毎年実施している。また、防火訓練では火元の状況の確認を待つてでは遅くなるので、出火と同時に避難するようにと消防署より改善の提案があった。新入生には防災グッズを配布している。

基準7 学生の募集と受入れ

自己評価結果

【2月委員会 ご意見】

- ・私の地域（千葉）の高校からも華学園は認知されてます。千葉、埼玉、常磐線沿線などの高校は十分にターゲットになると思います（椿）
- ・華ならではの魅力をSNSを活用してアピールできると良いかと思えます（谷田川）
- ・外部デザインコンクールは広報活動のプラスになる。（窪田）

【～2024 年前期対応】

<募集>令和6年度の新規入学者数は29名であった。一昨年より昨年度のオープンキャンパスの参加者は増加した。毎週金曜日夕方実施の相談会の参加人数も一昨年比で増加したが、入学者は減少。コロナが収束し複数の学校の見学を指示された高校生は増加したためと思われる。

今年度はオープンキャンパスのメニューや内容の改善に努めた。現在の進捗状況はオープンキャンパス参加人数は昨年並み。

AO入試のエントリーは昨年より若干増加。但し、まだ進学先を迷っている高校生も多い。

環境的には、18歳人口及びファッション分野の希望者が減少し続けている。今後も募集は厳しい。

入学者は概ねが高校内ガイダンスやリクルートなどのサイトを経由してオープンキャンパスに参加し入学につながっている。

よって、学園広報（部）の強化（投資）が必須（ガイダンス参加、高校訪問、WEB対策）である。

また、留学生や通信サポートの入学も視野に入れた対応が今後必要。

基準8 財務

自己評価結果

【委員会 ご意見】

- ・高校現場の立場（進路指導）からは、いつも学費に見合った学びかどうかみておりました（椿）

【2024 年前期対応】

単年度では厳しい状況が続き、入学者数の確保に苦慮している。老朽化による設備の更新や修繕の費用も増幅している。

一方で、分野としての人気の低迷もあり、定員確保ができにくい環境にある。無駄な支出を抑えつつも入学者増に向けて、魅力ある学校作りのためにカリキュラムの見直しを行うと共に教育面で必要な設備投資を計画的に行っていく必要がある。

基準9 法令等の遵守

自己評価結果

【委員会 ご意見】

特になし。

【2024 年前期対応】

特記事項ありません。

基準10 社会貢献・地域貢献

自己評価結果

【委員会 ご意見】

- ・十分にされていると思いますが、地域貢献活動や外部貢献も必要なことは言うまでもありません（椿）
- ・海外の方向けに着付けのイベントなどを実施する（谷田川）
- ・古着 リメイク販売、古着 de ワクチンなど社会貢献に取り組む（学生から着ない服や雑貨を集めてバザー形式で販売し売上金を寄付するなど、検討されてはどうか（窪田）

【2024 年前期対応】

高等学校及び中学校の職業体験・職業研究として見学の依頼や数日間の体験の依頼がある。中高で「探究」の授業（演習）が行われている一環かと思われる。

学校周辺及び最寄り駅付近のボランティア清掃を年間通じて継続して実施している。

地域（台東区）の小中学校には、毎年「学びのキャンパスプランニング事業」に応募（依頼があれば出向く）しているが要望は数年来無い。

総合（その他）

自己評価結果

【2月委員会 ご意見】

- ・専門学校として体系的に整合性のある組み立てになっていけば、もっと総合力として発揮が可能であります。しかし、それぞれの教員の方針と全体の方針との整合性がない印象があります。（白石）
- ・学生さんのことをしっかり考えられ、問題点を整理され、確実に前に進もうとされている感じを持っております。服飾校の学校としてSDGs やサステナビリティの観点からもアピールが必要かと思えます。これは学生さんへの意識付けを大切です。（椿）
- ・学生が意欲的に長期的に学業に取り組めるように授業やカリキュラムごとの評価シートを作成し、学生が自身のゴールを具体的に理解する必要があると思えます（谷田川）
- ・個々の学生のレベル目標を自己管理させ、レベルアップの協力を教員・講師で協力し自己実現を考えさせる（窪田）

【～2024 年前期対応】

- ・学校の特徴づけとして
（高校生に希望の多い）「舞台衣装」製作に関する取り組み継続。
- ・インターンの拡充
- ・希望先就職への取り組み（就職先の分野、企業の拡大）と指導の見直し
- ・カリキュラムの再構築検討 特にクリエイター科